

(外国語活動)

## 外国語による体験活動を通したコミュニケーション能力の育成

### — 友達の声と共に —

大阪市立今里小学校 研究部

#### 1. はじめに

本校では、学校教育目標「思いやりの心を持ち、学力と体力を伸ばそうとする子どもを育てる」のもと、子ども一人一人の良さと可能性を広げることを常に念頭に置きながら、誰に対しても思いやりの心をもつ子どもの育成と楽しく明るい学校づくりを進めている。昨年度より「外国語による体験活動を通したコミュニケーション能力の育成」を研究主題として、国語やわが国の文化を含めた言語や文化に対する理解を深めると共に、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に取り組んだ。

昨年度は、外国語活動の年間指導計画を作成し、それをもとに、楽しみながら自然に英語に親しむことができる場を工夫し、体験活動を通してコミュニケーション能力を育てることに努めた。授業実践を通して、児童は楽しく英語に親しむようになり、積極的に外国語活動に取り組み、友達の意見を聴いたり発表したりするようになってきている。また、ネイティブスピーカー（以下 NS）との交流により、文化や習慣の違いについての驚きをもとに、外国に対する興味・関心をもつようにもなってきた。しかし、各学年の年間指導計画に応じた教材・教具の整備、さらには、NS とのより緊密な連携のあり方をどう進めるかなどの課題も残された。

今年度は、これらの課題の解決をめざし、各学年が連携し、いつでも誰でも楽しむことのできる外国語活動をめざして研究に取り組むことにした。小学校6年間を見据えた全学年にわたる系統立てたカリキュラムの作成や、児童が楽しく自然に外国語活動に取り組める年間指導計画の見直しとその検証を行う。また、教材・教具の充実と整備、教職員の指導力の向上と NS とのさらなる連携等を図る中で楽しく自然に外国語活動に取り組む子どもを育てたいと考えた。

#### 2. 研究の内容

小学校学習指導要領外国語活動の目標「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。」を達成するために、各学年の目標を決定し、コミュニケーション能力を養うための場の工夫を中心に研究を進めた。

##### (1) 各学年の目標

- 低学年・・・歌やゲームなどの英語を使った活動を楽しむ。
- 中学年・・・表現や身振りなどを使って英語のやりとりを楽しむ。
- 高学年・・・自分の思いや考えを英語を使って表現することを楽しむ。

##### (2) コミュニケーション能力を養うための場の工夫

- ・子どもたちが、「人と関わるのが楽しい」「知ってうれしい」と思うことができる場の設定を工夫する。
- ・子どもたちが、「聞きたい」「伝えたい」と思えるように学習内容を工夫する。
- ・コミュニケーションに必要なものとして、次のようなことを大切にする。

\*ジェスチャー

\*スマイル

\*アイコンタクト

\*good voice                      \*あいづち                      \*マジックワード

\*相手の気持ちを考える                      \*自分の意見を持つ

・「英語は楽しい」と思うことができる活動を設定する。

\*「楽しそう」「やってみたい」→「できた」「わかった」→「伝え合ってよかった」

\*「聞く」から「話す」へ。無理をしない。間違っても大丈夫!

### (3) 各学年の実践

第1学年	「色で遊ぼう」	(10月)
第2学年	「動物で遊ぼう」	(9月)
第3学年	「好きなものを伝えよう」	(7月)
第4学年	「こんなことできる?」	(9月)
第5学年	「What do you want?」(Hi, friends! Lesson6)	(10月)
第6学年	「Turn right.」(Hi friends! Lesson4)	(9月)

## 3. 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- 低学年では、歌・チャンツを繰り返し聞くことを通して、英語のリズムや発音に親しみ、楽しく活動する姿がみられるようになった。
- 中学年では、表現やジェスチャーなどを使ってゲームや歌を実施したことで「楽しそう・やってみたい」→「できた・分かった」→「伝え合ってよかった」と英語学習を楽しむ態度が育ってきた。
- 高学年では、NSと担任によるデモンストレーションにより、新しく学習する単語や表現の意味を考えた後、英語でコミュニケーションをとる活動を取り入れたので、身近な場面とつながるよい機会となった。さらに、英語の単語や文を聞く活動をたくさん取り入れることができた。
- 活動の振り返りの場では、CAN—DO評価の考えに基づいた振り返りカードを作成し活用することで、本時の授業の目標が達成できたかを指導者が授業後すぐに把握し、次回の授業へとつなげることができるようになった。また、児童も自分自身や友達の頑張っていたところやよかったところなどを見つけることができ、互いのよさを認め合うことができた。

### (2) 今後の課題

- 1～6年までの系統的な年間指導計画をより具体的にし、今里小学校の児童の実態に応じた指導計画を立て、実践することによってより効果的な指導ができると考える。
- いろいろな英語の歌やチャンツなどを取り入れて、多くの児童が英語のリズムや音声に慣れ親しんできたので、今後も継続して取り組み、朝の学習を活用するなど、さらに工夫をしていく。
- Classroom Englishを学校生活の中にできるだけ取り入れてきたが、授業でも指導者が英語を使ってゲームやアクティビティの説明などができるように、指導者の英語力を向上させていくための工夫をする。
- 外国語活動についてはアルファベットなどの文字指導も含めて、中学校との連携を図りながら、指導を進めていく。